



- ◎ 地域医療支援病院
- ◎ 地域がん診療連携拠点病院
- ◎ 病院機能評価認定病院
- ◎ 臨床研修指定病院

第20号 平成27年1月1日発行

### 『新年のご挨拶』



福島労災病院 院長 大和田 憲司



新年明けましておめでとうございます。皆様にはお健やかに新年を迎えられたことと思います。

東日本大震災そして福島第一原発事故が発生してから、まもなく4年が経過します。震災復興はまだまだ進んでいないように思われますが、街中ではマンションやホテルの建設も盛んになって、海岸の堤防工事なども始まっています。いわき市内の空間放射線量は年間1.0 mSv（1時間当たり0.23  $\mu$ Sv）を大幅に下回っていて、日常生活で放射線被ばくを心配する状況にはありません。しかし、震災は風化しつつあると言われているにもかかわらず、風評被害がまだ続いていることは残念に思われます。

当病院は、いわき市における中核病院の一つとして東日本大震災以降も休むことなく診療を続けて、職員全員で地域の信頼が得られるよう努めてきました。いわき市の医療、特に救急医療は医師不足に加えて医師の高年齢化が進んで、ますます厳しい状況になっていますが、できるだけ対応したいと考えています。さらに「地域がん診療連携拠点病院」及び「地域医療支援病院」の指定を受けているので、その役目も果たすべく病病・病診連携を積極的に進めるとともに、医師・看護師・コメディカル間の連携を密にして医療の質を高めていきたいと考えています。医院やクリニックの先生方には当病院への患者紹介はもとより、病診連携のもと良質の医療を提供すべくご協力をお願いいたします。

当病院は常勤医不在の診療科もあって、皆様にご不便をかけていますが、今年は泌尿器科を発展させるとともに、病院で比較的不足している腎臓病や糖尿病の診療体制を充実させたいと考えています。消化器病センター（消化器科・消化器外科）、呼吸器疾患センター（呼吸器科・呼吸器外科）、循環器科などは引き続いて地域に根ざした診療を続けてまいります。

明るい話題としては病院の増改築構想があり、工事開始に向けて順次計画を進めているところです。数年後には新しい病院ができますので期待して待っててください。今年も職員一人一人が質の高い診療を心掛けて「受ける人が主役の医療の実践」を推し進め、皆さんに信頼される病院をめざすとともに安全で安心の医療を提供できるよう努めます。本年4月には新しい院長が着任しますので、皆様の変わらぬご支援とご協力をお願いして年頭のご挨拶といたします。





## 『新年のご挨拶』



福島労災病院 副院長 武藤 淳

新年あけましておめでとうございます。

昨年暮れからの列島を包み込む寒気により、今冬は格別の寒さとなっておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。震災・原発事故から間もなく4年になるうとしています。年末の総選挙やオリンピック招致に沸き立つ動きは、政治や経済、インターネット普及で加速した国際情勢が、遅々として進まない復興の中で、

被災した地方感情と乖離(かいり)しているように感じます。

消費税率が上がり、家計のみならず医療環境も厳しくなった中、いわき市での医師、看護師不足は病院運営を更に厳しいものとし、新年を迎えても身の引き締まる思いで過ごしているところです。

そんな厳しい環境の中、当院は、“地域医療支援病院”と県内で最初に指定を受けた“地域がん診療連携拠点病院”の機能を病院運営の両輪として、その内容と実績の充実に力を注いでゆきたいと考えております。地域で開業されている“かかりつけ医”の先生方との連携を大切に、がん医療の中核病院機能を果たしながら、いわきの地域医療が崩壊しないよう職員一同心を一つにしております。

当院は「受ける人が主役の医療の実践」（患者の視点で行う医療）を理念として医療活動を行っておりますが、それを支えているのは、医療スタッフの関係性の良い“チーム医療”です。医療スタッフ同士のみならず、患者さんとの関係においても、コミュニケーションの取れた明るくオープンな関係を構築し、楽しい職場、心安らげる病院作りを心がけてゆきたいと考えております。心身に不安を持たれた方々が、安心して受診できる病院を作ってゆけるように職員一同、今年も力を合わせて頑張っけてゆきますので、皆様のご協力をお願いいたします。

2020年の東京オリンピック招致を控えて、土木・建築業界において、人回り金回りが厳しい東北地方ではありますが、当院も増改築の基本構想に入らんとしております。推奨される標準的医療が、①安全に、②機能的に、且つ③効率的に行える病院の建設に向けた構想元年です。患者さんと働くスタッフ両方の満足が得られ、健康と就労を支える地域のコミュニティー機能も備えた病院を造れるよう、希望を持って考えているところであります。皆様から御支援、御助言を頂ければ幸いです。

本年も福島労災病院をどうぞよろしくお願いいたします。



## 診療科紹介

# 呼吸器科の紹介です



呼吸器科 主任部長 山縣俊介

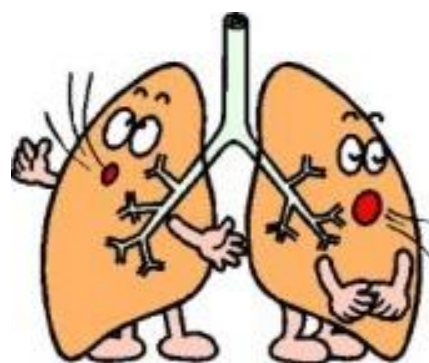
当科では呼吸器疾患センター長である石原先生とともに2人体制で呼吸器疾患全般の診療に当たっております。ここでは当科での検査及び治療に関して紹介させていただきます。

呼吸器診療での検査手技は限られたものであり気管支鏡が主なものになります。苦しい検査というイメージがありますが当科では積極的に鎮静を行い安楽な検査を目指しております。また肺末梢の小さな病変をいかに診断していくかが肝になりますが、透視での確認だけでなく超音波内視鏡を利用してより確実な検体採取に努めております。縦隔病変に対しても超音波下穿刺により低侵襲での診断を可能にしています。肺がんの診断のみにとどまらず、間質性肺炎を含めたびまん性肺疾患や起因菌不明の重症肺炎に対しても積極的に気管支鏡を行い確実な診断につなげています。また胸水貯留例に関しては局所麻酔下に内視鏡を胸腔内に挿入し胸膜生検を行うことで診断率を上げています。

治療に関しても最新治療を取り込みつつ標準的な水準を保つよう努力しております。肺がんでの当科の治療は主に化学療法になりますが、手術可能例では診断後速やかに呼吸器外科での治療を、局所進行がんでは放射線科とともに胸部照射を併用し集学的治療が行える体制を整えております。重症肺炎や慢性閉塞性肺疾患（COPD）急性増悪などの急性呼吸不全では非侵襲的陽圧換気療法や人工呼吸療法などの補助換気を併用して急性期管理を行っております。間質性肺炎

を含めたびまん性肺疾患に関しては未知の領域が多い分野ですが、可能な限り気管支鏡での診断に基づきステロイドを含めた免疫抑制療法などを行っております。

以上のように当科では確実な診断と病態生理の理解をもとに治療に結びつけていけるよう努力しております。日々の診療でお困りの事があれば遠慮なく御相談ください。



## 看護部紹介

# 2 病棟(緩和ケア病棟)

皆様、新年あけましておめでとうございます。緩和ケア病棟は、開設後5年が経過し、患者様や地域の方々をはじめ多くの方に病棟の存在を知っていただけるようになりました。病棟には5年間で約1300人の方が入棟され、多くの方々との出会いがありました。そして、私たち一人ひとりの看護師に忘れられない患者様やご家族とのエピソードが残っております。一緒に泣いたり笑ったりする日々の中で、人間として、看護師として成長させていただいていると感じています。



緩和ケアは、がんと診断された時から始まるとされています。患者様が長い闘病生活の中で体験する不安や悩み、痛みなどの辛い症状を軽減し、患者様に合ったケアを提供することに私たちスタッフは取り組んでおります。緩和ケア病棟は、もう何も治療ができなくなった時に最後に入院する病棟ではありません。抗がん剤治療の途中で食欲がなくなった時に体力をつけるために入院したり、痛みを取り除き外泊や外出をして自信をつけて退院し、外来通院に戻ることができます。決して最期を過ごすための病棟ではなく、辛い症状をできるだけ取り除き、苦痛で自分らしさを失うことなく、限られた時間を有意義に過ごしていただけるように支援する病棟とご理解いただければ幸いです。

患者様やご家族の心配事や悩みに応えられるように、当病棟には、経験年数が豊富で優しい看護師27名が勤務しております。患者様の辛い症状が緩和され、「楽になったよ」という笑顔が私達スタッフには嬉しく、ましてや退院できた場合は至上の喜びとなります。

病棟では、季節を感じていただくための七夕やクリスマスなどの行事も行っています。病棟の構造面は他の緩和ケア病棟に比べると不十分などころはありますが、癒される病棟を目指し今後もチーム医療を提供していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



2014年 病棟クリスマス会にて



## 外来化学療法室のご紹介



北棟 1 階にある外来化学療法室では、抗がん剤による治療がおこなわれています。アロマの香りで心安らぎ、負担なく治療ができるようスタッフ一同心がけております。また、点滴による長い時間の治療中も退屈しないようテレビやDVD をご覧いただくことができます。また、色々なパンフレットも取り揃えています。遠慮なくお声掛け下さい。



こんなケアグッズ  
ご紹介してま〜す

大切な人、家族ががんになっ  
てしまったら・・・



今日の気分は〜  
ミントの香り？それ  
ともラベンダー？



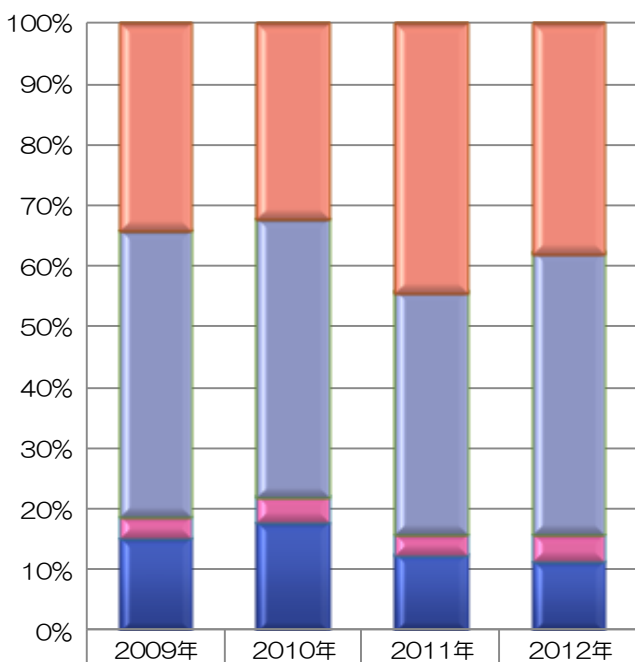
## 『がん診療連携拠点病院』てな～に？

「がん診療連携拠点病院」とは、全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるようにということで、都道府県の推薦を受け、国から指定を受けた病院です。現在全国で407の病院が指定され、福島県内では9病院が指定を受けています（平成26年8月6日現在）。当院も指定を受けている病院です。

専門的ながん医療の提供、地域のがん診療の連携協力体制の構築、がん患者に対する相談支援及び情報提供等を行っています。また、指定の要件の中に「がん登録」の実施があります。これはがんの罹患や転帰その他の状況を登録・把握し、分析する仕組みであり、がん患者数・罹患率、がん生存率、治療効果の把握など、がん対策の基礎となるデータの把握のために必要なものです。その登録されたデータから一部紹介させていただきます。

では、一番最初に医療機関を受診したきっかけは何か？を分類する「**発見経緯**」について見てみましょう。「がん検診」とは、がん検診を受けて「がん」が見つかった場合です。「健康診断・人間ドック」とは、健診やドックにより「がん」が見つかった場合になります。「他疾患経過観察中」とは、他の病気があって、そちらの治療を行っている間に「がん」が見つかった場合になります。

### 発見経緯



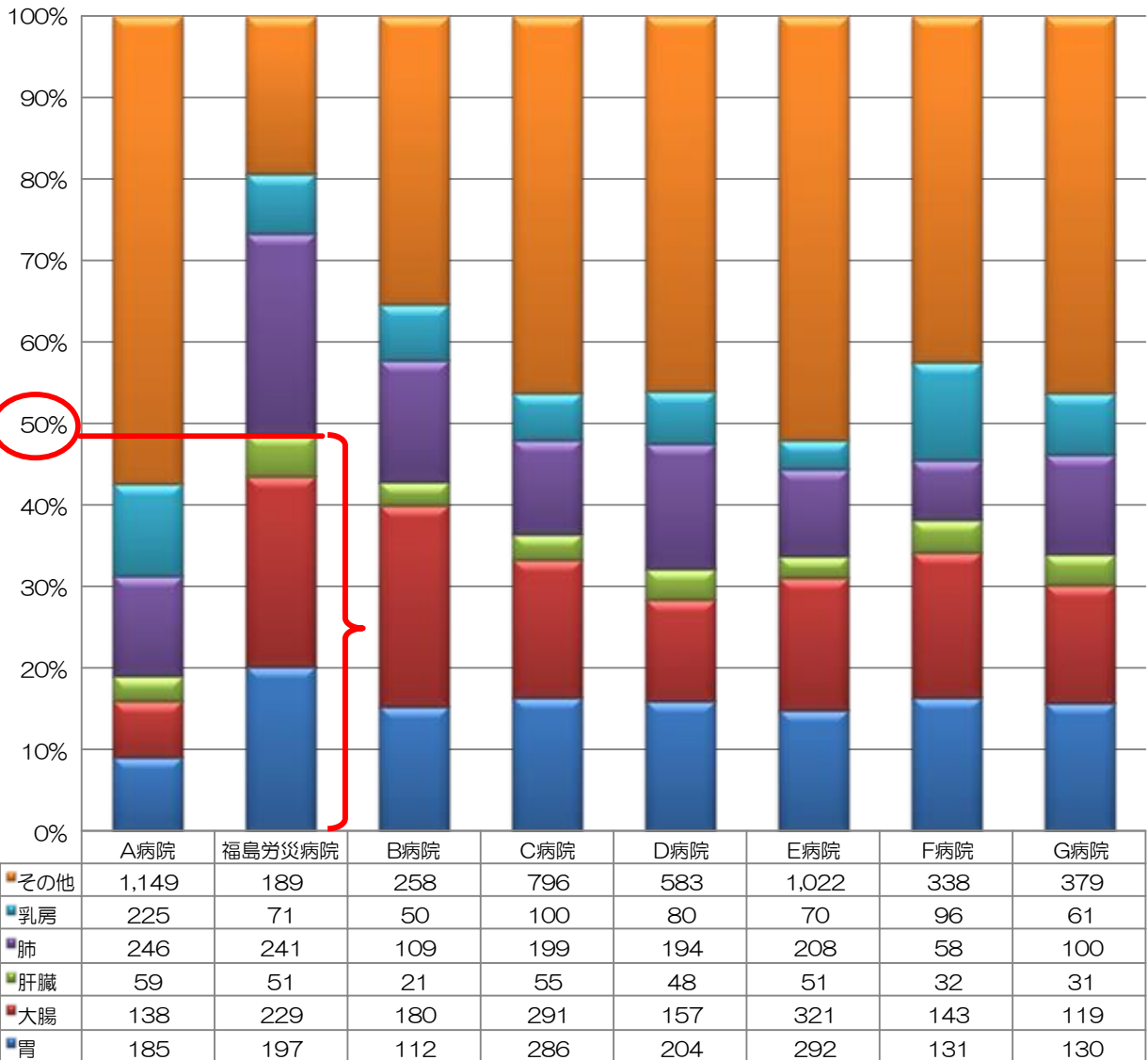
■その他不明	277	294	387	368
■剖検発見	0	0	0	0
■他疾患経過観察中	382	419	350	454
■健康診断 人間ドック	29	40	30	43
■がん検診	125	164	110	113

こちらは、当院の2009年から2012年のデータです。このデータから、皆さんなんらかの病気があって、その治療の過程で「がん」が見つかる、ということがわかります。まだまだ「がん検診」や「ドック」で見つかることは少ないですね。

皆さん、がん検診やドックを受けて「がん」の早期発見に努めましょう！！



## 2012年 福島県内のがん診療連携拠点病院との比較



こちらは、2012年の登録データを提出した福島県内の「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けている病院での比較データになります。主要5部位といわれる「胃」、「大腸」、「肝臓」、「肺」、「乳房」と「その他の部位」に分けて、それぞれの拠点病院での割合を比較したものです。

当院は「胃がん」、「大腸がん」、「肝臓がん」という消化器系のがんが半数近くを占め、消化器系が強い病院ということがわかっていただけたと思います。

また、2010年に呼吸器外科医師の着任により肺の手術も可能となったため「肺がん」の占める割合も大きくなっています。

こちらのデータは県内8施設での比較になっていますが、現在はお隣のいわき市立総合磐城共立病院も拠点となり9施設になっています。



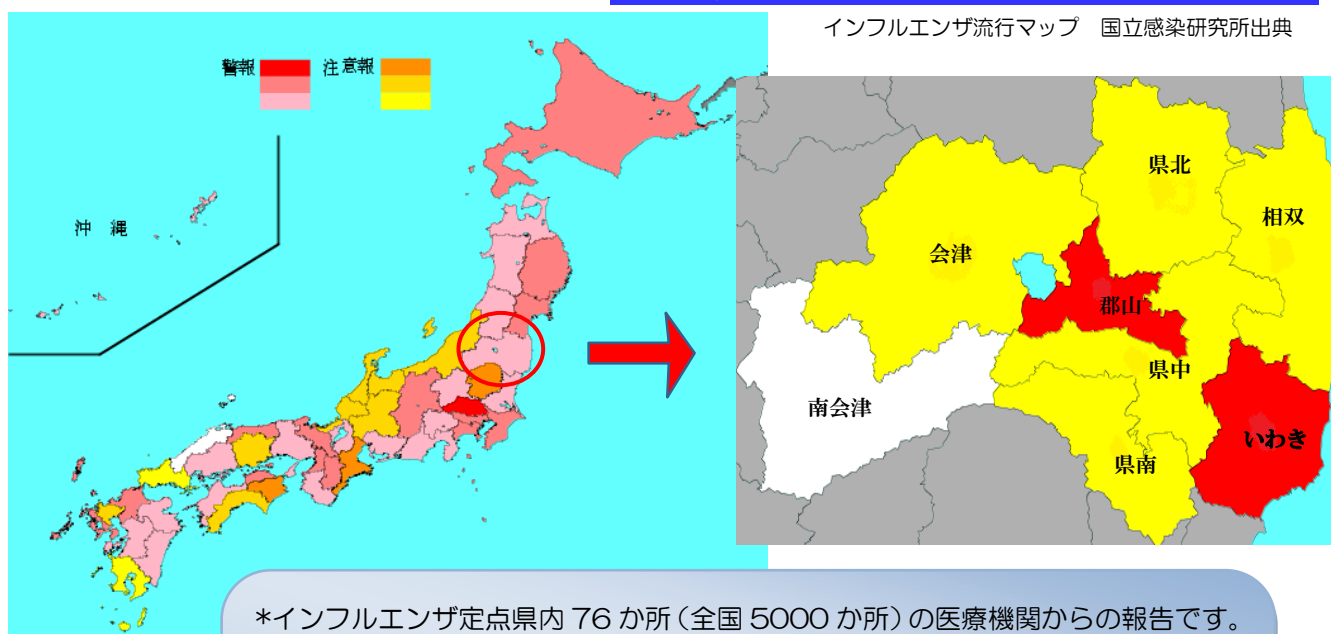
## インフルエンザが福島県のいわき市で大流行しています！

インフルエンザが全国で流行し始めており、流行の発表が11月にされたのは、なんと7年ぶりで、昨年よりも1ヶ月も早いそうです。インフルエンザが今年2014年度は大流行しそうな予感です。

福島県では、平成26年第52週（12月22日～12月28日）に県内76の定点医療機関から報告があった患者数は2,001人で、県内でインフルエンザが流行期に入ったと発表しました。定点当たりの報告数が注意報の指標（10.0）を上回る26.33となりました。保健所管内別の患者数は、いわき市が660人（定点30以上）と最多で「**いわき市のインフルエンザ流行が警報レベル（大流行）**」、次いで郡山が478人と、いわき市を中心に拡大しています。県保健衛生課は「できるだけ人混みを避け、外出後の手洗いを心掛けてほしい」と注意を呼び掛けています。

2014年 第52週（12月22日～12月28日） 2015年1月6日現在

インフルエンザ流行マップ 国立感染症研究所出典



- \*インフルエンザ定点県内76か所（全国5000か所）の医療機関からの報告です。
- 流行入り・・・県全体の報告患者数が定点当たり1以上となったとき
- 注意報発令・・・県内いずれかの保健所管内の報告患者数が定点当たり10以上となったとき
- 警報発令・・・保健所管内の報告患者数が定点当たり30以上となったとき
- 警報解除・・・保健所管内の報告患者数が定点当たり10未満となったとき

インフルエンザ対策としての予防には、「うがい・手洗い」「咳エチケット（マスクをつける）」「ワクチン接種」があります。



### インフルエンザワクチンの効果は？

ワクチンの効果は接種してもすぐには発揮されません。効果が発揮されるのは、接種2週間後から3～5か月間です。予防接種をすることで、インフルエンザに『感染しなくなる』わけではありません。感染しても『発症したり、重症化しにくくなったりする』のが、予防接種の効果なのです。



## インフルエンザワクチンは毎年したほうがいいのか？

毎年継続して接種することをおすすめします。理由は2つあります。

1つ目の理由は、日本で使われているインフルエンザワクチンは不活化ワクチンであり効果が長く持続しないためです。2つ目の理由は、流行が予想されるインフルエンザのタイプは、毎年少しずつ変化するために、インフルエンザワクチンの内容が毎年異なるからです。過去の接種によってある程度免疫を得られていたとしても、前年のワクチンの効果では今年の流行に対応できない危険性があります。

## 咳・くしゃみなどの症状のある人は、マスクを着用する。

マスクを着用していても、鼻の部分に隙間があったり、あごの部分がでていたりすると、効果がありません。鼻と口の両方を確実に覆い、正しい方法で着用しましょう。



咳やくしゃみが出る時（マスクを持っていない場合）は、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて1m以上離れましょう。

## こまめに手洗いをする。

咳やくしゃみなどを押さえた手からドアなど周囲のものにウイルスや細菌を付着させないために手洗いをしましょう。

## インフルエンザを発症した場合は？

インフルエンザは、学校保健法2種感染症疾患です。これに準じた就業制限が必要となります。

**“発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで”**です。

※「休む勇氣」、「休ませる勇氣」が感染症のコントロールには非常に大切です。

《注意点》 インフルエンザを発症すると発症後7日間はウイルスを排出すると言われています。抗インフルエンザ薬の内服によって発熱期間は通常1～2日短縮されますが解熱後もウイルスを排出しているため十分感染源になり得ます。解熱した後2日経過だけでは就業できません。

**発症後7日目までは、マスク着用が必要です。**



# “病診連携登録医のご紹介”



当院の病診連携登録医の先生をご紹介します。  
今回は高畑内科循環器科 院長 高畑秀夫 先生です。

当院は、内科、循環器科、アレルギー科、呼吸器内科を標榜し、いわき市好間にて診療にあたっております。

この中で循環器科としては、おもに高血圧症、心臓病、不整脈、動脈硬化、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患などの患者さまの診療をしております。

地域に根ざした診療所を心掛けており、上記のような疾患を含む内科系疾患、またはアレルギーでお困りの患者さまの診察・治療や健康診断などをおこなっております。

また手術の適応となる疾患やさらなる精査が必要と判断した患者さまに対しては、病診連携を通じ近隣の病院を適切に紹介させていただいております。

これからも『地域医療の窓口』を目指して頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



高畑内科循環器科 院長  
高畑秀夫 先生



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
8:30~12:00	○	○	○	△※	○	△※	--
14:00~18:00	○	○	○	--	○	--	--

月火水金 8:30~12:00 14:00~18:00  
※木土 8:30~12:30  
休診日：日・祝

〒970-1151

いわき市好間下好間字一町坪49-3

☎ 0246-36-1133





## 疾病と食事 ～脂質異常症～

脂質異常症は血液中の中性脂肪や LDL（悪玉）コレステロールが基準より高い、または HDL（善玉）コレステロールが基準より低い状態のことをいいます。

遺伝的要因や体質、食習慣、運動不足、肥満などが背景にあることが多く、禁煙、食生活の見直し、運動量を増やす、適正体重に近づけると同時に内臓脂肪を減らすなど、ライフスタイルの改善を行きましょう。

### ◎適正なエネルギー量をとりましょう

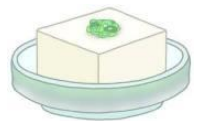
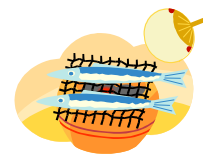
身体が必要とするエネルギーより多くとらないことが大切です。肥満がある場合は、エネルギー量を見直して肥満を解消しましょう。

<1日に必要なエネルギーの目安>

標準体重 [ 身長 (m) <sup>2</sup> × 22 ] × 25~30kcal

### ◎肉類のおかずより魚介類や大豆製品のおかずを取り入れましょう

LDL コレステロールを減らし、HDL コレステロールを増やすには、主菜の材料として肉類より魚介類や大豆製品の割合を多めにするとよいでしょう。



### ◎コレステロールを多く含む食品に注意しましょう

特に LDL コレステロールが高い人は、内臓類、卵に注意が必要です。

### ◎油を使った料理は1日2品までにしましょう

脂肪は種類に関係なくエネルギーが高いので、肥満予防のためにも油を使った料理は控えめにしましょう。

### ◎食物繊維は毎食しっかり摂りましょう

私たちの腸内で消化できない食物繊維は、野菜、果物、豆、きのこ、いも、海藻類などに多く含まれ、コレステロールを減らすのに役立ちます。野菜、きのこ、海藻類は毎食2~3品、果物、豆類、いも類は1日1回を目安に食べましょう。



### ◎アルコール、甘いものは控えましょう



アルコール、お菓子、ジュース類を多くとりすぎると血液中の中性脂肪が増えます。夜寝る前は特に控えましょう。



栄養管理室

## エリアごとの携帯電話端末の使用について

当院では、携帯電話及びスマートフォン等携帯電話端末のご使用に関し、医療機器の安全性、患者様並びにそのご家族、関係業者及び職員のマナーの観点から以下のようにエリアを設けルールを設定しております。エリアごとの携帯端末ご使用にあたっては、以下の注意事項についてご協力くださいますようお願いいたします。

場 所	通 話	メール・ ネット閲覧	注 意 事 項
各外来待合 エレベーターホール 院内廊下 面会室			<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療機器から1m以上離れてください。</li> <li>●使用禁止エリア(手術室・術後観察室・重症患者病室・循環器科病棟観察室)に近い場合は電源OFFにしてください。</li> <li>●歩きながらの使用(スマホ検索等)は控えてください。</li> <li>●面会室は、起床時間から消灯時間まで使用可能です。</li> </ul>
病室 リハビリテーション訓練室			<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療機器から1m以上離れてください。</li> <li>●多床室における通話は、入院患者様のみとします。</li> <li>●同室の患者様に迷惑がかからぬよう通話は短時間をお願いします。</li> <li>●患者様のご家族・面会される方は、面会室での通話をお願いします。</li> </ul>
診察室			<ul style="list-style-type: none"> <li>●マナーモードにし、診察中は着信があっても受けないでください。</li> <li>●診察呼び出しの妨げにならないよう短時間での使用をお願いします。</li> <li>●マナーモードにしていれば、電源を切る必要はありません。</li> </ul>
手術室(本館棟3階) 術後観察室(全病棟) 重症患者病室(全病棟) 循環器病棟(5東病棟)観察室 生理検査室(本館棟2階)			<ul style="list-style-type: none"> <li>●電源はOFFにしてください。</li> </ul>

### ～ 目 次 ～

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| ■ 「新年のご挨拶」大和田院長 …P 1   | ■ 「新年のご挨拶」武藤副院長 …P 2   |
| ■ 診療科紹介(呼吸器科) …P 3     | ■ 看護部紹介(2病棟緩和ケア) …P 4  |
| ■ 外来化学療法室紹介 …P 5       | ■ がん診療連携拠点病院とは? …P 6～7 |
| ■ インフルエンザ流行について …P 8～9 | ■ 病診連携登録医紹介 …P 10      |
| ■ 疾病と食事(脂質異常症) …P 11   | ■ 携帯電話端末の使用について …P 12  |